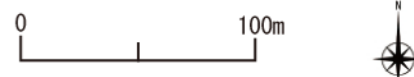


# 長浜市木之本町石道水害履歴マップ その②

(H28. 8. 30 長浜市木之本町石道会館で行った聞き取り調査に基づき作成)

— 昭和5年7月8日・昭和25年9月3日(ジェーン台風)・昭和29年(梅雨の大雨)・昭和34年9月26日(伊勢湾台風) —

作成 立命館大学 防災まちづくり研究室 (長浜市 HP 地図サービス上に作成)



## 昭和5年

**[当日の様子]** (朝日新聞滋賀版S5. 7. 11)  
8日午後4時ごろから降り出した猛雨は、夜に入って小降りとなった。各河川の水は刻々と増水し、湖北地方の高時川、余呉川、大川などの増水は甚だしく、濁水はものすごい勢いで、田畑、人家に押し寄せた。  
**[被害]**  
井明神の周辺で7戸床上浸水した。  
**[復旧]** (朝日新聞滋賀版S5. 7. 11)  
速水、竹生、杉野、朝日、南富永、片岡、木之本の各町村では、鐘や太鼓で、村民の非常招集を行い、青年団や消防団総出動で、逃げ惑う女や子供を避難させたり、炊き出しを行った。一方、濁水の防止、警戒に戦場のごとく目まぐるしい活動を続けた。

(昭和34年)  
決壊したが、石道への被害はなかった。

高時小学校  
(現在の一時避難所)

石道会館  
(現在の一時避難場所)

(昭和29年)  
土取り場で山を削っていた。  
→土砂が崩れやすくなっており、流出が激しかった。

## 昭和29年

**[被害]**  
大きな岩が瀬谷川上流より流れてきて、谷の出口の集落内で留まり、川を堰き止めたため、川の水が溢れた。家の目前まで川の水が迫ったが、浸水被害は大きくなかった。一部、座敷まで使ったところもある。  
**[復旧]**  
瀬谷川をせき止めていた大きな岩を発破(ダイナマイト)を使って砕いた。

(昭和34年)  
井明神付近の住民は、東の集落へ避難した。

(昭和34年)  
増水した水が川の右岸堤に当たってはね、反対側の左岸堤を削り、道路の大部分まで削り取った。

(昭和34年)  
高時川の水位が高くなり、瀬谷川の水が排水できなくなり溢れた。

## 昭和34年(伊勢湾台風)

**[当日の様子]**  
・橋が流されることはなかった。  
・家が揺れているのが目で見えるくらいであった。  
・伊勢湾の(東からくる)風は異と言われ、恐れられていた。  
**[被害]**  
・当時、家屋の屋根のほとんどが茅葺き屋根であり、ほとんどが飛ばされた。  
**[復旧]**  
・共同で一軒ずつ屋根の修繕に当たった。  
・この水害を受け、昭和37年に瀬谷川が改修された。新しい川は雨量300mm(何時間雨量かは不明)に対応した設計であると当時の設計者から聞いた。  
**[避難]**  
・主に、各自で避難していた。  
・明治期に造られた蔵が各家庭に一棟ずつあり、そこに避難していた。  
・当時は蔵に逃げるのが一番安心という認識であった。  
・蔵の大きさは、平均二間×三間ほどであった。(一間およそ1.8m)

## 昭和25年(ジェーン台風)

**[当日の様子]**  
雨が止んだので台風が過ぎたと思い、地区内の見回りに出て戻ってくると、逆風が吹き荒れ出した。つまり、台風の目に入っていた。  
**[被害]**  
風の被害が甚大であった。かやぶき屋根が飛ばされた。  
**[意識の変化]**  
今回の聞き取りに参加していただいた方々は、この台風を機に、台風に対する恐怖心を覚えた。

**凡例**

- 昭和52年 圃場整備範囲
- 危険箇所
- 水の流れ
- 昭和34年 浸水範囲



石道地区内の蔵 (作成者 撮影)